

2008年8月21日

厚生労働大臣 舩添 要一 様

路木ダムを考える河浦住民の会	代表 小川浩治
	代表 若杉数太
天草の海を考える会	代表 植村振作
天草自然研究会	代表 吉崎和美

連絡先：「路木ダムを考える河浦住民の会」事務局 松本基督
〒863-1204 熊本県天草市河浦町崎津 1350-4

水道水源開発施設整備費事業（路木ダム）等に対する補助金中止を求める陳情書

平素より我が国の社会福祉および公衆衛生の向上などのためにご尽力いただき、感謝いたします。

さて、私たちの暮らす熊本県天草市河浦町には自然豊かな天草でもめずらしくなった清流をもつ路木川というすばらしい川が残っています。

この路木川に現在、熊本県によって路木川河川総合開発事業の一環として「路木ダム」の建設が進められており、並行して「路木ダム」を水源とする「水道水源開発施設整備事業」と「簡易水道施設整備事業」が天草市によって行なわれています。

しかし、「路木ダム」の建設目的である治水・利水理由はすでに破綻おり、私たちは「路木ダム」の建設中止を求めて活動している団体です。

「路木ダム」による利水事業について

天草市は2007年4月、貴省健康局水道課に「水道水源開発等施設整備事業再評価表」（以下「再評価表という）を提出しましたが、その内容が実情と大きく食い違っている以下の重要な点があります。

◎ 給水量の激減：牛深地区の上水道供給について、平成6年には一日平均6,000トンを超えていた給水量が現在（2008年）では3,600トン程度まで激減しています。背景には過疎化の進行による急激な人口減少があります。2006年3月の合併後にはさらにその傾向が顕著となり、牛深・河浦地区は天草市の予測を超えた人口減少と水需要の大きな減少という形で表れてきています。

そのため、通常時の上水道供給は現状で問題なく対応できます。

渇水時においても、合併して一つの自治体となった隣接する河浦町の豊富な流量を持つ数本の河川からの取水によって十分対応可能です。

◎ 取水量と給水量の差：「再評価表」にあるように牛深地区上水道はヤイラギダム及び桜川を既存水源としています。しかし、最近では取水量と給水量の差が、取水量の25～30%と異常に大きくなっています。通常、浄水施設運転のためのロスがある程度発生しますが、最近の1日平均5,000トンの取水量に対して、わずか3,500トンの給水量です。あまりにその差が大きすぎます。そのことを改善する気配もなく、ただやみくもに「路木ダム」建設を前提にして、「水道水源開発施設整備事業」を推進しようとしているもので、税金の無駄使いです。

◎ 費用対効果分析：過去20年以上にわたって「緊急揚水」と称している早浦川からの取水をないものと見なして毎年断減水が生じる、とした前提はあまりにも非現実的です。平成6年の干ばつによる平成6～7年の夜間断水以降、牛深地区上水道における断水は行なわれておらず、実際の渇水被害をもとに算出すべきです。

◎ 代替案の可能性：同じく「再評価表」には「緊急的に揚水を行なっている内の原川は小さく、田畑に使う水量及び河川維持管理に必要な水量を控除した余剰水が見込めないため、水利権の取得は困難であります」などと書かれています。しかし、現実には同川から15年以上にわたって揚水を続けており、今後仮にダム建設が進むとしても完成までは同川から揚水する予定です。また揚水の時期は農閑期であり、これまで農家の理解が得られています。余剰水が見込めないというのは虚偽です。

さらに「また、近隣には地形的かつ地質的にも、地下水等の水源を確保することは過去の経緯からして見込めない状況であります」とありますが、このことも全く事実に反します。

2006年3月の合併で同じ行政区となった、牛深地区に隣接する河浦町には広い流域面積を持ち、豊富な水量、清浄な水質を持つ複数の河川が上水として未活用のまま存在しています。これまで、私たちはこれらの河川水の利活用を天草市に提案しましたが、その検討をすることなく、天草市の「水道水源開発施設整備事業」は「路木ダム」建設を前提にして進められているものです。

新たに巨額のダムを造るよりもはるかに安価で、早く、しかも良質の水を確保できる河川水を利活用しないことは私たち天草市民のみならず国民の理解が得られないだけでなく、貴省通達「水道施設整備事業の評価の実施について」（健水発第0712002号 平成16年7月12日付）に記された「コスト縮減及び代替案立案等の可能性」にも明らかに反します。

天草市は上記「水道水源開発施設整備事業」と同時に同市河浦町に「一町田地区簡易水道再編推進事業」（統合簡水）も進めています。

その再評価調書にも全く事実と反することが書かれています。

◎ 社会経済情勢等：再評価調書には「河川や海域において水質の汚濁が進んでいる。水需要は増加すると見込まれる」などと書かれています。現実には「逆」です。

熊本県の「水質調査報告書」によると、河浦町を流れる天草最大の河川「一町田川」の水質は近年向上しています。また、人口の激減によって水需要が増加する可能性は考えられません。

- ◎ 代替え案等の可能性：同じく再評価調書には「大きな河川もなく、安定した良質な水の確保が困難です」などと書かれています。しかし、前述のように河浦町には路木川をはじめ一町田川、今田川など広い流域面積を持つ川が流れ、天草では最も水に恵まれた地域です。再評価調書の記述は虚偽です。
- ◎ 費用対効果分析：再評価調書には「投資に対する効果を客観的に判断するため、需用者が独自にダムがない場合の被害額を想定して分析を行なった」などとありますが、事業者が独自に想定した分析など全く客観的ではありません。
一町田簡易水道では一度も断水は起きておらず、極めて過大な便益見込みです。

ちなみに、「路木ダム」建設のもう一つの目的である「治水」について 「路木川河川整備計画」（平成 13 年 1 月 熊本県）には、「昭和 57 年 7 月等の豪雨による洪水時には、下流宅地において約 100 棟の床上浸水、中流部水田においては約 8ha の農作物被害が発生している」などと書かれています。

ところが、天草市の記録や私たちが行なった現地調査によると、路木地区の床上浸水数は「ゼロ」であり、「路木川河川整備計画」の記述は明らかな捏造です。

路木集落は路木川から山で隔てられているため、路木川の氾濫による路木集落の家屋被害は地形上ありえません。しかし、熊本県が作成した路木川の氾濫想定区域にはこの「地形上ありえない」路木集落も含まれているのです。熊本県が示した災害記録は捏造されたものであり、氾濫想定区域（被害対象区域）は全く現実を無視したものです。

起きてもない洪水被害データに基づく治水計画が社会的に批判されています。

なお、路木ダム建設事業は本年 3 度目の熊本県再評価監視委員会の対象事業となっており、路木ダムの本体着工を前に本水道水源開発施設整備費事業の見直しの好機と捉え、下記の通り陳情します。

記

私たちは、天草市が社会情勢の変化への適切な対応をせず、代替案の可能性を真摯に検討しないまま、進めている「水道水源開発施設整備費事業」（路木ダム）及び「一町田地区簡易水道再編推進事業」に対する補助金交付中止を求めます。

以上

※「水道水源開発施設整備費事業」（路木ダム）及び「一町田地区簡易水道再編推進事業」について、熊本県・天草市から提出されている資料、要望書等を示していただいた上でご説明下さい。